

日銀金融政策決定会合（2025年12月）

市場予想通り、政策金利を0.75%に引き上げ

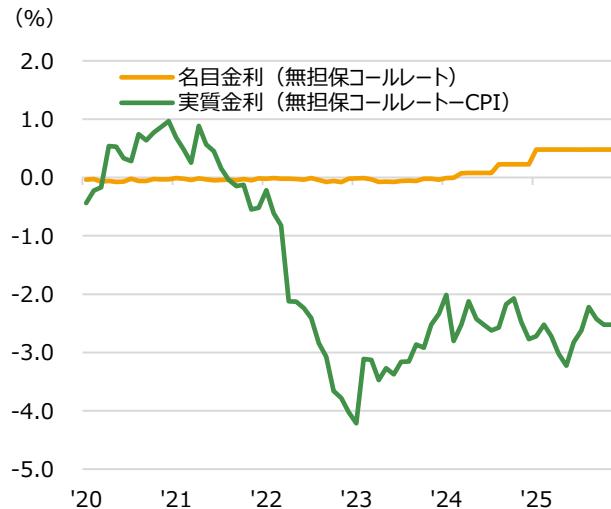
2025年12月22日

利上げ路線継続、実質金利は大幅なマイナスが続く

日本銀行（以下、日銀）は12月18日～19日に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り、政策金利である無担保コールレート（オーバーナイト物）を0.25%pt引上げ、0.75%程度で推移するよう促すことを決定しました。利上げは今年1月以来、約11カ月ぶりとなります。声明文には、今回の決定の背景として、米国経済や各国の通商政策を巡る不確実性が低下したことに加え、賃金と物価がともに緩やかに上昇していくメカニズムが維持される可能性が高いことなどが記されています。

政策金利が日銀の推定する中立金利レンジ（1%～2.5%程度）の下限に近づく中、利上げのペースや最終到達点を見極めるうえで、今会合では中立金利に関する見解が注目されました。記者会見で植田総裁は、具体的な水準についての言及を避けつつ、「実質金利は大幅なマイナスが続き、緩和的な金融環境は維持される」との見解を示しました。さらに、「中立金利の下限にはまだ少し距離がある」と述べ、先行きの金融政策運営について利上げ路線の継続を示唆しました。一方で、政策金利が約30年ぶりの高水準となる中、銀行貸出など金融環境への影響も含め、利上げによる経済・物価への影響を慎重に確認する姿勢も示しており、追加利上げを急ぐ様子はうかがえません。こうしたハト派的な姿勢を受け、記者会見後に円安が進み、1米ドル＝157円台後半に達しました。根強い円安圧力の中、政策が後手に回るリスクも指摘されており、当面は利上げのペースや最終到達点を探る展開が続くと見込まれます。

政策金利



10年国債利回りと米ドル円の動き



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指標・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまで参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。